

series Salamander in the circle

リ・コンストラクション

第三部

第十六章

Anbeleo Calendar

峯村 明

リ・コンストラクション

[登場人物](#)

[16・Anbeleo Calendar](#)

[182.](#)

[183.](#)

[184.](#)

[185.](#)

[186.](#)

[187.](#)

[188.](#)

[189.](#)

[190.](#)

[あとがき](#)

[奥付](#)

登場人物

桧山 健	27歳の実業家
ひろ	健の妻
真	健・ひろ夫妻の子
イリチャ	真の魂体

182.

(イリチャ——)

そうつぶやくと、翼竜は笑ったようだった。ふっ、と軽く頭をさげると、次の瞬間には、翼を畳んだまま、中庭に降り立っていた。バランケはよじ登るようにしてそのからだに乗ってしまった。地上にうずくまっても、翼竜の肩のあたりまで二メートルはあり、頭部はさらに上方。バラムは健の足元にきて行儀よく座り、翼竜を見上げている。

背中に手を感じる。ひろだ。彼女もまた夢見るようなまなざしで翼竜を見上げている。そして、言った。「あたし、いちど乗せてもらったことがあるの。こんどはあなたの番」

健ははたと我に返った。翼竜を指さし、「乗れ、と?」「そうよ。二人は無理だって言ってたわ。一人なら乗せられるって。さあ」

乗れってたって、どこからどうやって? オレはネコじゃないんだぞ、と考えていると、くちばしが降りてきてすくいあげられてしまった。

健が背中に落ち着くのを待って、翼竜は両手両足でぐっと地面を突き放した。次の瞬間には《ミッドランタ》の建物よりも高い所にいた。ゆっくりと翼が左右に広がって、やがて地面を覆いかくしてしまう。

「着陸はともかく、離陸はどうやるんだ? 助走するのか?」とマックス・ペイリーが悩んでいたのを思い出す。すると、

《ケースバイケースさ》と頭の中で声が響いた。《狭いとこじゃ、走れないからね》

地上ではひろが質問攻めに遭っていた。ダーヴェ＝ラウレンスもバイスロイ＝エドミールも、翼竜を見るのは初めてだったのだ。

(おまえはイリチャなんだろう?)

笑いの波動が来て、《そうだよ。ヒューダー。会いたかった》、翼竜は深い声で言った。

懐かしい。イリチャの波動と声音に、健は胸がいっぱいになった。イリチャを知っているのはヒューダーの人格だが、そんなことはどうでもいいと思う。ヒューダーは健の一部で、切り離せるものじゃあないと感じている。ヒューダー自身は戦士の名と体を持ち、民族学者などというものをやっていたが、今や五歳児を抱き上げて運んだだけで息切れするような細い体をして、経済学者にして実業家である。

マミヤにしろ、バイスロイにしろダーヴェにしろ、みなかつての面影を残しているというのに、彼だけは甚だしく変わってしまった。

《この時代にヒューダーみたいな物理的な体格も戦士の能力も必要ないもの》、とイリチャはすぐに反応する。《要らないものは捨てる。そう判断したのはあなたの魂だよ》

(オレは、つくり替えられた、ということだったが、それはオレの希望だった、と?)

《なにいつてるのさ。誰もあなたをつくり替えることなんてできない。あなた自身がそうしたんだよ》イリチャは楽しそうに言った。

《覚えてないの? ぼくはあなたとマミヤに、両親になってくれる? って訊いた。そしたらふたりとも、いいよ、って》

(.....ほんとうか??)

《本当もなにも。だから真がいるんじゃないか》

(.....)

《あなたはぼくに名前をくれるって約束した。本当の名前をね》

(え——だから——真——?? おまえは、真なのか??)

《that's right》

眼下を見おろせば、いつの間にか下は海。藍色の穏やかな水面が満月を映して素晴らしい景色。夢を見ているようだ。

《ちょっと遠出したいんだ。つきあって》

(どこへ?)

《懐かしいところさ。遠出たって、すぐ着くから》

184.

《——バイスロイさんに、逢ったんだって?》

(なんでそんなこと知ってるんだ)

《ぼくは真だってこと、お忘れなく》

イリチヤはうわの空のような口調でつぶやいたきり黙ってしまい、物思いに沈んでいるようだった。

(——おい)

《——はい?》

(バイスロイがなんだっていうんだ?)

《……べつに、なんでもない。いろいろ思い返してただけ——》

(いろいろ思い返すような何があったんだ! 言ってみろ!)

《ちょっと! 首絞めないで! 言う、言うから!》

(はやく言え!)

《乱暴だなあ！ そんなに聞きたければ言うけど、でも、ヒューダーにはショックかもしれないよ》

＊

あなたたちがネウトラ評議会メンバーとしてベレオーサ総督府に出頭した、そのあとのことだ、とイリチャは語った。

《同じころ、バランケがいなくなり、バラムがジャガー狩りに遭い、マミヤも捕らえられた。マミヤの一件は、バイスロイさんが持っていた黒曜石の短剣が発端だった。総督シパドは短剣の製作者が国外の人間だと割り出し、マミヤに焦点を当てたんだ。その同じ短剣がバラムの命をも奪った。

バイスロイさんは、シパドが次々と繰り返すおぞましい凶行の原因が、彼への執着にあると悟った。

シパドの一言で罪人が誕生し、ろくに取り調べもなく、総督府の牢屋は罪人で溢れかえった。彼女はやりたい放題だった。彼女の一族ベレオーサ家も、本家アンベレオ王家も、彼女に影響力のある人間はひとりもいなかった。けれども、ただひとりだけ……》

(……………)

《どうしてシパドがバイスロイさんに目をつけたのかわからない。けれど、シパドは自分の総督就任セレモニーに同席させ、ベレオーサ家の家長ドウルに、彼を結婚相手だといってはばからなかった。

誰も彼も、バイスロイさん本人もびっくりした。新総督ともあろう者が、素性もしれない外国人を連れてきていきなりそんなことをいいだしたんだから。

ドウルは問答無用でバイスロイさんを邸から追放し、バイスロイさんは喜んで逃げ出した。ここでふたりはいったん裂かれたんだ。

が、ドウルは自分のしたことを後悔した。誰の手にも負えないシパドに影響力があるのはあの男しかない気づいたから。

シパドの兄が自分を探していると知ったバイスロイさんは考えた。

恩赦という手なら、牢に入れられ極刑を言い渡された人たちを合法的に救える。
自分になら、彼女の愚行をやめさせることができるかもしれない。

でも彼はそうとは認めなかった。

シパドはあれでなかなか愛らしいだの、総督を妻にすればその配偶者は同等の権力を手にする、楽しみだ、だの言っさ.....それ聞いて、ぼくは彼のことすごく軽蔑した。

けど、そのあとレルに言われたんだ、ヒューダーの立場になってみて、って。『彼はオレのために犠牲になったのだ』と考えながら生きるのは辛いことだって。だからバイスロイさんは本心をいわないんだよって。それから、レルは、『誰かの反発を買わなきゃいいけど』とも言った。

そしたら——シパドの婚約と恩赦が発表されてすぐ、彼は殺されてしまった。かつての芸術家仲間に、裏切り者と罵られてね》

（——そんなことがあったのか——）

※・詳しくはSalamander in the circle 第26章から39章をご覧ください！

《.....知らないほうがよかったんじゃない？》

（なぜ。少なくともオレの方は、知ったからといって彼に対する態度や気持ちが変わるような付き合い方をしていないつもりだ。条件付きで変わるような関係は、本当の関係じゃない）

《.....》

（今生、なぜ彼と血の繋がりができてしまったのかとさんざん考えた。どう考えてもわからん。が.....なにかわけがあるんだろうさ.....）

185.

翼竜の羽毛の間に伏せた健の胸の下、という安全で居心地のいい場所で空の旅を満喫していたバランケがもぞもぞと動き出し、翼の付け根まで這って行く。

「バランケ、落っこちるなよ」

《大丈夫、落ちたら拾いにいってあげるから》

バランケは身を低くしてじっと前方を眺めている。なにを見てるんだろうと、健はバランケの視線を追って、あ、と思わず声をあげた。

淡い青を帯びた地平線を背景に――台形ピラミッドのシルエットが見える。ヒューダーは幾度か航空機からこの光景を見たことがある。

「総督府！？」

《うん。今やテオティワカンで名で一大観光地になってる。あとで行ってみよう。その前に、べつのところに用があるんだ》

＊

ここメキシコ国立人類学博物館はテオティワカンにほど近い。イリチャは博物館の屋上に着地すると、人型に変身し、バランケを抱えた健の腕をとり、建物の天井も壁も素通りした。彼らはまるで精霊だった。そして――

ふたりと毛を逆立てた一匹は、巨大なオブジェを見上げている。

直径3.6メートル、厚さ90センチ、重量24トンの、一枚岩の円盤。

ピエドラ デル ソル。太陽の石。

同心円状に精緻に施された彫刻は美術品として息を呑むほどすばらしい。

その中心にいるのは……最高神。ナイフのような舌を突き出す異様な図。人身御供を欲し、かぎ爪で生贄の心臓をつかむ神だ。

美術品としてひじょうにすばらしいだけに、彫られているものの異様さが際立つ。真ん中に描かれた顔面とその両側のかぎ爪の部分だけで直径のほぼ半分を占める。いやがうえにも目を引きつけられ、際立つのだ。

イリチャが振り向いて健の様子をうかがう。だいじょうぶ？ という表情で。

健は見返す。

生きたまま心臓をえぐり取られるという経験をした者は有史以降、中米・南米合わせて数えきれない。健はその遥か以前に自身の身でそのシチュエーションを体験した。衆目の中、公然と行われた衝撃的なその儀式を、誰がどう解釈したものか。それが総督府のお膝元のようなこの地で、ほんの数百年前まで行われていた。もっとも、アンブレオ王国はずっと前からこっそりやっつい

たわけで、そのこっそりさは黄金門のバイスロイが知らなかったくらいだった。秘密の儀式というものは連綿と引き継がれるものらしいと、健は妙な感慨を覚えていた。

186.

二万年という時間は大きな緩衝材だったのだと健は思った。今またこの世に戻ってくるまでに、彼の魂は前世を咀嚼し、飲みこみ、養分あるいは情報と化していたのだ。この巨大な石板を前にして、正気が消し飛び、あるいは気も狂わんばかりのフラッシュバックに襲われなかったのは、きっとそういうことなのだ。

彼は、大丈夫だというようにイリチャにうなずいた。そして、この世で、かつての記憶を持ったまま、かつての鏡のような石板に向き合うことに、いったいどんな意味があるのか、と考えた。マミヤに、バイスロイに、ダーヴェに再会したことにどんな意味があるのか。

中央の神の周囲に四つの四角。ジャガー、風、雨、水の、四つの時代。それぞれ大惨事で終わり、五つ目の時代の神が中央にいて舌を出している。

二番目のリングは20日ずつ18ヶ月の、それぞれを象徴する動物。そして不吉で無益で有害だとされる五日間。合計365日。メソアメリカの暦は365日の太陽年と260日の儀礼年とを実際の生活に組み合わせている。

三番目のリングでは二匹の蛇が頭を一番下にして石板を取り囲んでいる。

四番目のリングは天体の要素らしい。

1521年スペイン人は激しく抵抗するアステカ帝国を征服。征服者たちは住民の太陽崇拝を邪教と呼び、人身御供という行為に驚愕した。恐ろしい宗教儀式を終わらせようと、スペイン人は現在のメキシコシティの中央広場に『太陽の石』を逆さまに埋めた。再び日の目を見たのは1790年になってからである。今では土気色をしているが元は極彩色だった。

『太陽の石』にどんな役割があったのか、正確にはわかっていない。カレンダーと呼ばれることはあるが、多くの事象が象徴的に並んでいて時を測る機能はない。もしかしたら犠牲者のための祭壇だったかもしれない。

《確かなのは、ひじょうに不気味だってとこな》
「バイスロイが見たら、もうれつに対抗心を燃やしそうだ」
バランケは体中の毛を逆立てて唸りっぱなしである。

メキシコシティ(かつてのアステカ帝国の首都・テノチティラン)で発見された『太陽の石』は、その機能は不明なものの、メソアメリカの文化を象徴するものとして、非常に印象的にして名高い。

《だから見てもらいたかった》、とイリチヤは言う。《じつは、問題はこれじゃないんだ》
「これじゃない、とは？」
《この『太陽の石』には、原形がある。ぼくはそれを、アンベレオの王宮で見た》

187.

《アトランティスの暦は、
365日の太陽暦と260日の神聖暦、そして金星の会合周期(金星が太陽と地球と一直線に並ぶ周期)584日から成っていた。
アトランティスを最初に指導したのは金星神だったから、ここまではどの国のどの文化でも同じだ。

アンベレオの暦にもうひとつ、秘密の要素が加わる。大熊座流星群の最大周期、52年、日に直すと18,980日。

さて、365日、260日、584日、18,980日の、最小公倍数は？》

「ちょっと待て。今ツールの持ち合わせがない」

《暗算できないの？ アルチニアさんのなぞなぞ(あとがき参照)に比べたら、よほどシンプルじゃないか》

「三桁超の数字を四つも並べて最小公倍数を暗算で出せなんて、ふつうやらないぞ。おまえほんとに真か？」

《真はテニスのカウントさえできればいいんだよ》

「で、アルチニアのなぞなぞってなんだ？」

《あとでね。365、260、584、18,980の最小公倍数は37,960。これは太陽暦、神聖暦、金星の会合周期、大熊座流星群の周期、四つのすべてが37960日（太陽暦104年）で一巡し、始まりの日が一致するということなんだ。

アンベレオが滅びたあの日、大熊座流星群が最大の流星を降らせたあの日、四つのカレンダーは一巡していた。新しい周期に入ろうという日だったんだ。

文明が滅びても天体は動く。カレンダーは有効。

今からほぼ百年前。アンベレオ・カレンダーにおいて、太陽暦にして20,800年（7,592,000日）が経った。最小公倍数37,960が200回（7,592,000日）カウントされた》

「百年前——」

《区切りの数字というのには大きな意味がある。百年前に何かのスイッチが入ったんだよ》

188.

あれはたしか夢の中だった。誰かが言った。何者かが、数字によって、世界を支配していると。曾祖父・正太郎はそのことに気づいたのだ、と。彼が渡豪したのがだいたい百年前のことだった——

ああ、と健は呻いた。イリチヤの言う「百年前に入ったスイッチ」とは、数字による世界支配なのか。曾祖父はアンベレオ・カレンダーの区切りに居合わせたということなのか。そうならば——数字による支配者とはアンベレオを導いたのと同じ存在——？

あの"誰か"はさらにこう言ったのだった。

「H&Lは人間の自由を取り戻すために、根底に《そいつ》に対抗する目的をもって組織されたのだ」

16・「Anbeleo Calendar」

17・「Grand Duke of Aurea」へ続く

あとがき

メソアメリカの暦で有名なのはマヤとアステカ。

マヤはメキシコ南東部、ユカタン半島；紀元前3世紀-16世紀。260日周期のツオルキン暦や365日のハアブ暦、これらを組み合わせたカレンダーラウンド、また、長期暦はマヤのです。

アステカはメキシコ中央高原；15世紀前半-1521年滅亡。暦はマヤ暦を踏襲しています。たぶん、『太陽の石』という大物のせいでこっちの方が目立ってる感じがしますが、暦としてはマヤの方が精緻。マヤの象形文字による819という数字は、水星、金星、土星、木星の会合周期と関係があるらしい。

なお、アンベレオ・カレンダーはフィクションです。



『太陽の石』

人と比較するといかに大きなものかがわかります。

アルチニアさんのなぞなぞは『化学の結婚』(J・V・アンドレーエ)から。

筆者は数式作っただけで満足してしまい、検算などしてません。興味のある方は挑戦してみてください。

問題

「——数値にすれば55ありますが、文字の数は8しかありません。三番目の文字は五番目の文字の三分の一です。

これを六番目の文字に足すと、その根が最初の文字の値分だけ三番目の文字より大きい数になります。それは四番目の半分です。五番目の文字と七番目の文字は同数です。また最後の文字も最初の文字と同数です。この二つを合わせると六番目の文字と同数になりますが、六番目の文字はしかし三番目の文字の三倍より四つだけ大きい。さて、私はなんという名？」

問題の名前の8文字を仮にギリシャ文字の α から θ までで表し、三番目の γ を未知数 x と置く。 $\leftarrow$
 その根が三番目の文字より最初の文字の値分だけ大きい数を y と置く。 $\leftarrow$
 すると、次の八つの方程式ができる。 $\leftarrow$

$$\begin{array}{ll} \text{I} & \alpha + \beta + \gamma + \delta + \varepsilon + \zeta + \eta + \theta = 55 \\ \text{II} & \varepsilon = 3x \\ \text{III} & \zeta = y - x \quad \text{IIIa} \quad \sqrt{y} = x + a \quad y = (x + a)^2 \\ \text{IV} & \delta = 2\sqrt{y} \\ \text{V} & \varepsilon = \eta \\ \text{VI} & \theta = \alpha \\ \text{VII} & \beta = \zeta - (\theta + a) \\ \text{VIII} & \zeta = 3x + 4 \end{array}$$

$\leftarrow$
 方程式IIIからVIIまで右辺を x で表す。 $\leftarrow$

$$\begin{array}{ll} \text{III} & \theta \text{ または } 3x + 4 = (x + a)^2 - x \quad \text{ゆえに、} a = 2\sqrt{x + 1} - x \\ \text{IV} & \delta = 4\sqrt{x + 1} \\ \text{V} & \eta = 3x \\ \text{VI} & \theta = 2\sqrt{x + 1} - x \\ \text{VII} & \beta = 5x + 4 - 4\sqrt{x + 1} \end{array}$$

$\leftarrow$
 方程式Iに組み込まれた語は次の方程式をなす。 $\leftarrow$

$$(2\sqrt{x + 1} - x) + (5x + 4 - 4\sqrt{x + 1}) + (x) + (4\sqrt{x + 1}) + (3x) + (3x + 4) + (3x) + (2\sqrt{x + 1} - x) = 55$$

計算の結果は次の二次方程式となる。 $\leftarrow$

$$169x^2 - 1238x = -2193$$

x に相当する値は3である。ゆえに、 $\gamma = 3$ したがって、 $\leftarrow$

$$\alpha = 1 \quad \beta = 11 \quad \delta = 8 \quad \varepsilon = 9 \quad \zeta = 13 \quad \eta = 9 \quad \theta = 1$$

$\leftarrow$

これらの数をそれぞれ対応するアルファベット文字で 1=a, 2=b, 3=c, のように表すと、女の名前 Alchinia となる。 $\leftarrow$

錬金術を指すラテン語 **alchimia** の m と一字違い $\leftarrow$

奥付

リ・コンストラクション

第十六章 Anbeleo Calendar

2025年 5月30日初版発行

著者

峯村 明 [E-mail](#)

表紙素材

[イラストAC](#)

制作

Puboo

発行所

デザインエッグ株式会社